

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏 名 佐久嶋 研

主査 教授 久 住 一 郎
審査担当者 副査 教授 寶 金 清 博
副査 教授 佐々木 秀 直
副査 教授 田 中 伸 哉

学 位 論 文 題 名

神経サルコイドーシスにおける脊髄病変の臨床的特徴と診断方法に関する研究

この学位論文は、難病のひとつであるサルコイドーシスが神経に出現した病態である神経サルコイドーシスに関して、脊髄サルコイドーシスを取り上げ、臨床的特徴と FDG-PET の診断的意義をまとめたものである。脊髄サルコイドーシスは高齢者に多く髄液検査での異常所見に乏しいこと、発症から診断までに期間を要することがあること、FDG-PET の SUV による脊髄病変の定量的な評価は非炎症性脊髄病変と脊髄サルコイドーシスの鑑別に有用であることを明らかにしている。

審査においては、1) FDG-PET によるサルコイドーシスと悪性リンパ腫の鑑別、2) 既存の症例報告などの SUV 値と今回の研究での SUV 値、3) 高齢女性に罹患が多いことと閉経の関連、4) 脊髄サルコイドーシスと頰椎症との関連について質問がなされた。それぞれについて、1) サルコイドーシスと悪性リンパ腫はいずれもリンパ節に病変が出現しやすく糖代謝は亢進するという共通点があり FDG-PET での鑑別は難しいため神経以外の病変からの生検での診断が望ましいこと、2) 症例報告でも SUV 値は 2-5 の間で報告されており、本研究の SUV 値とほぼ同じこと、3) サルコイドーシスは自己免疫機序が関与した疾患であり、閉経による免疫状態の変化がサルコイドーシスの発症・増悪に関与している可能性があること、4) 全身サルコイドーシスがある状況で頰椎症性変化による頰髄の物理的損傷などの影響により脊髄サルコイドーシスを惹起していると推察されること、が説明された。

この論文は、比較的稀で報告の少ない脊髄サルコイドーシスの臨床的特徴を明らかにし、診断における FDG-PET の有用性を明らかにした点で高く評価され、今後の本疾患の早期発見、確定診断に大いに寄与することが期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。